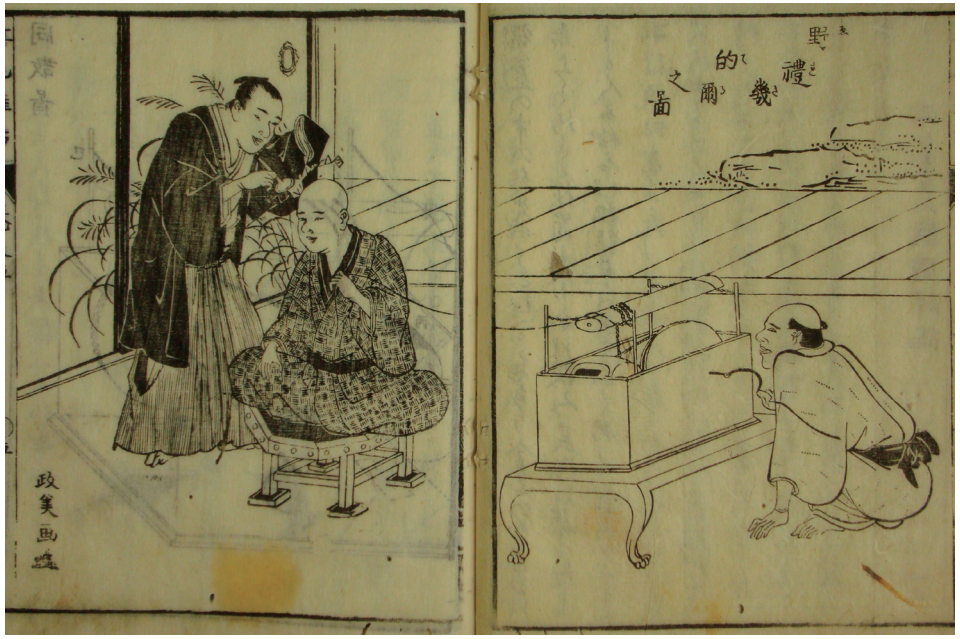
3-3-5　新しい学問と化政文化

# 蘭学の発達（「紅毛雑話」）



＊エレキテルの図（佐藤家文書 和漢208-1～5「紅毛雑話」）

**解　説**

「紅毛雑話」の著者である森島中良は，「解体新書」の訳出にも参加した幕府の奥医師桂川甫周の実弟で，自らも医師・蘭学者・戯作者などとして幅広く活動しました。

「紅毛雑話」は兄の甫周がオランダ人に面会して得た新知識などを中良が一般向けにわかりやすく紹介したもので，1787（天明7）年に刊行されました。オランダの歴史・風俗，諸外国の地理的事情，西欧から日本への海路および通過する国々の事情や流行病やオランダの画法に関する記述などがあり，なかでも顕微鏡で見た生き物たちの図や，ライオン・ワニの絵は有名です。中良は戯作者としての平賀源内の弟子でもありました。

写真は巻五に載せるエレキテルの図で，その内部構造を示した図もあります。エレキテルはオランダで見世物や医療器具として発明され，日本へは18世紀半ばに持ち込まれました。平賀源内は長崎滞在中に破損したエレキテルを入手し，1776（安永5）年に江戸深川で模造製作に成功しました。

山口県文書館所蔵アーカイブズガイド学校教育
目次に戻る